

高田援護室長の模型部屋(第19回)

皆さん、こんにちは。だいぶ過ぎてしまいましたが、5月の連休はいかがお過ごしでしたか？私は娘達の部活や勉強があったので、どこにも出かけることなく家で家事とプラモに集中していました。アキバ遠征は夏に持越しです…

そうそう、この春に高田駐屯地に入隊した自衛官候補生達も、大きい荷物を持って故郷に帰る姿が見られました。家に帰ってご家族や友人にどんな話をしてきたのでしょうか。私もあの頃を思い出します。武山駐屯地の教育隊から新潟の家に早く帰りたくて、教育訓練間もウズウズしていましたね。そして家に帰って最初にしたことがプラモ！ロシアのMIG-27を黙々と作っていました(笑)

さて、今回の連休中は戦車のほかに、アニメのプラモも作ったりしていました。一番大好きなアニメは「宇宙戦艦ヤマト」で、近年リメイクされたものが劇場公開されてますね。観に行きたいんですけど、限定された劇場でしか公開されてないので…残念です。

さて今回紹介するのは、その宇宙戦艦ヤマトが艦装される前の…



かつてのプラモ少年が必ずといってよいほど製作する3つのアイテム、「零戦」「タイガー戦車」そして「戦艦大和」…私も今まで、大小合わせて3隻は大和を作った覚えがあります。ちなみにゼロ戦は10機以上、タイガー戦車は5両と典型的なプラモ少年(オッサン)です。

さて、作成したキットはタミヤの1/700のウォーターラインシリーズです。この頃は映画「男たちの大和」が放映され、模型各メーカーがこぞって「戦艦大和」の模型を発売しました。今の艦船プラモはエッチングパーツを多用し、精密な模型が作れるようになりましたが、私は艦船の製作はあまり得意ではないので、ほぼストレート組みです。艦船モデラーの皆様、寛大な目で見てくださいね。



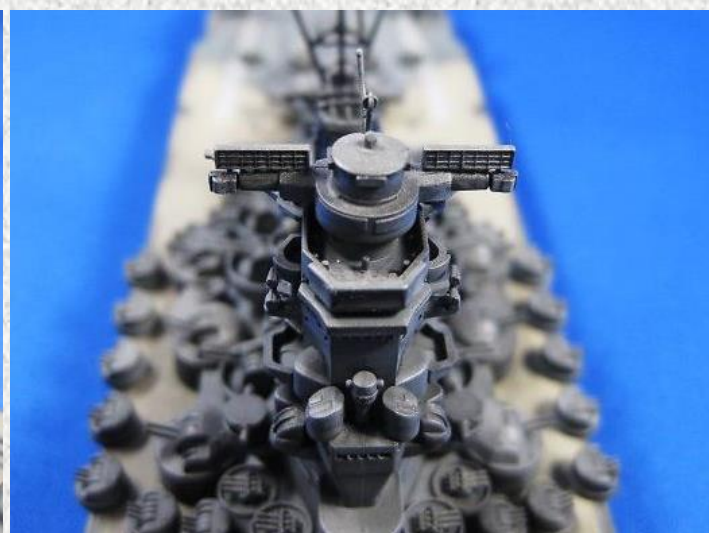
タミヤのこのキットは部品数もさほど多くなくてとても作りやすく、ほぼ2日で組み上げることが出来ます。ただ、塗装において甲板の木の部分と構造物の艦体色の部分を塗り分けなければなりませんので、苦労したのはその辺でしょうか。説明書どおりの色区分で塗装してます。



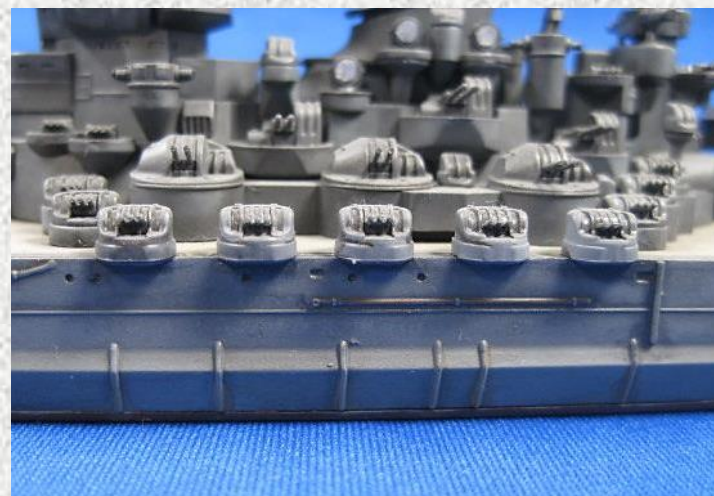
子供の頃は、「すげー！大和には水上戦闘機が搭載されているんだ！！」などと思っていましたが、搭載されていたのは零式水上偵察機と零式観測機で、主に弾着観測を任務とする事が分かったのは中学生になってからでした。艦と航空機の両方が作れる事では、大和は「お得感」があります（笑）



艦体中央に集中した構造物の様子が良く分かります。沖縄への最後の出撃の際は対空機関砲が更に搭載されたようですが、それでもこの数！取り付けるのも結構骨が折れます。しかし、航空機に対しては十分な対空効果を得られず、大和は航空攻撃により撃沈されてしまうのですよね。



こんなに細々していたら対空戦闘時には混乱していたんだろうな。映画のシーンのような光景も分かるような気がします。塗装後のスミ入れも大変！拭き取りの際に綿棒に砲身が引っかかっちゃうんだもん。



艦体側面のスミ入れには茶色も使用して錆を表現しました。実際に当時の大和がここまで錆びていたかどうかは自信がありませんが…

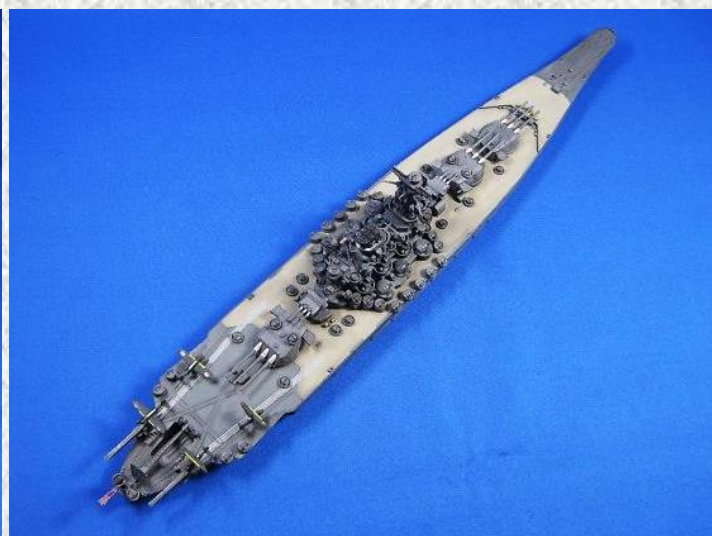


甲板前部の錨鎖には茶色を少し入れてスミ入れ。これだけでもかなり鎖らしくなります。当然、主錨にも茶色を少し加えています。艦尾の「やまと」の艦名表記。現在の海上自衛隊艦艇にも海軍時代同様にひらがなで艦名が記述されています。艦艇広報の時にぜひご覧ください。

甲板の木部は一枚一枚木の質感が異なるので、デッキタン色で塗装後、色鉛筆の橙色でところどころこすり付けて木板の集合体であるように表現しました。写真では分かりにくいですがね・・・



もしも、戦艦大和が艦艇広報(笑)で入港したら・・・こんな感じで見えるんでしょうか。水面近くから撮影したイメージ。やはりカッコイイ！大和は「漢の艦」です。



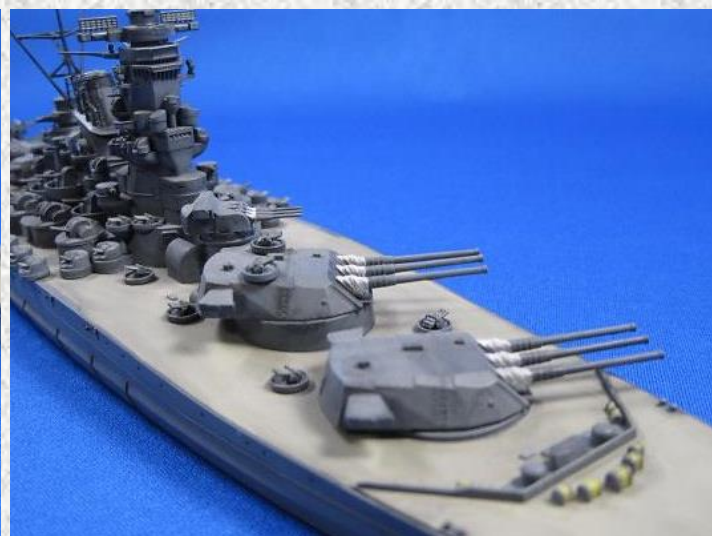
上から見た戦艦大和です。航空機から見るとこんな感じだったのでしょうか…



なので、1/144のゼロ戦を飛ばしてフライパスしている光景を撮影してみました。それらしく見えますかね…大和とゼロ戦の組み合わせ。これだけでもご飯3杯行けます！



駆逐艦を伴い出撃する大和…胸が熱くなる！模型だからこそ出来る戦場のワンシーン。「お父さん、楽しそうだね…」撮影している私をみて、娘達がボソツと言いました。



「偵察機ヨリ入電！敵機動部隊！
戦艦2、巡洋艦5、駆逐艦多数、
北北東二向カイ前進中…攻撃ノ要アリ！」

「うちいーかたあー、はじめー！」

ドカーン！ドカーン！

…あ、すみません。
一人の世界にどっぷり入り込んでました。



戦艦大和の最期は皆様ご存知のとおりですが、当時弱小国といわれていた日本が、このような艦艇を作れる技術力の高さを世界に知らしめた「誇り」や「意地」みたいなものが、人気なのかも知れません。漢たる者、心にはいつか見返してやるという「誇り」や「意地」を持ち続けたいものです。

数百年後には宇宙に飛び立ち、地球を救うことになるのですから、いずれ設立されるであろう「地球防衛軍」の皆様には頑張ってもらいたいです(笑)

さて、今回はここまで。なかなか製作速度が上がりませんが、皆様に見ていただけるように楽しんで作ります！ではまた。